平成28年度(2016年度)セタシジミ資源概況調査

井戸本純一・太田滋規

１．目　的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、1997年から産卵期にあたる5～7月の禁漁期間中に実際の漁具を用いて調査を行っている。

２．方　法

2016年5月29日および30日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（開口幅168cm、網目3 cm）を用いて調査した。各漁場内の調査か所は原則として過年度を踏襲し、必要に応じて別か所でも実施した。1か所につき1分間ないし2分間曳網し、採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。GPSの軌跡記録から曳網面積を求め、単位面積あたりの採捕数を計算し、資源密度とした。

３．結　果

資源密度は、全漁場の平均では前年の0.40個体／㎡から0.33個体／㎡に低下した(表1)。

主要漁場の資源密度は平均0.46個体／㎡から0.34個体／㎡に低下し、漁場別では沖島周辺と今西で比較的大きく下がった（図1)。体型別の推移をみると、殻長18㎜以上の密度が0.26個体／㎡から0.11個体／㎡に半減したのに対して殻長18㎜未満は0.20個体／㎡から0.23個体／㎡にやや増加した（図2)。

これらの変動の要因として、2012年に産卵期の肥満度が極めて低かったことによって4年貝の加入量が著しく少なかったこと、2013年に肥満度が回復したことによって3年貝の加入量が増えたことが考えられた。

表1　2016年禁漁期における琵琶湖北湖一円の漁場別資源密度

漁場	採集数	曳網面積(㎡)	密度(個/㎡)
菖蒲	151	454	0.33
牧	189	536	0.35
沖島南西※	113	501	0.23
沖島西※＊	216	684	0.32
沖島東※	210	425	0.49
新海	93	511	0.18
石寺＊	358	1,030	0.35
松原※＊	336	724	0.52
磯※＊	305	1,018	0.30
長浜※＊	311	1,055	0.29
今西※＊	240	988	0.24
海津	22	212	0.10
針江	52	215	0.24
高島	160	193	0.83
鴨川	77	228	0.34
近江舞子	39	202	0.19
平均			0.33

※主要漁場　　＊2か所の合計（密度は2か所の平均）

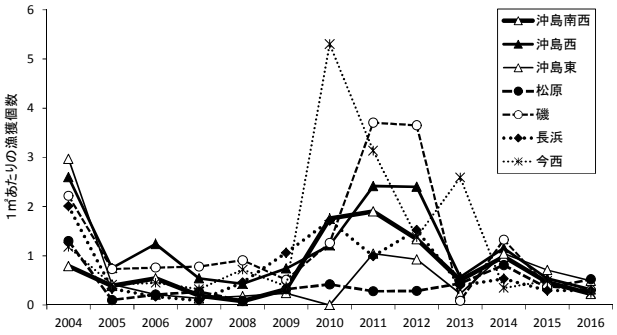

図1　各主要漁場における資源密度の推移.

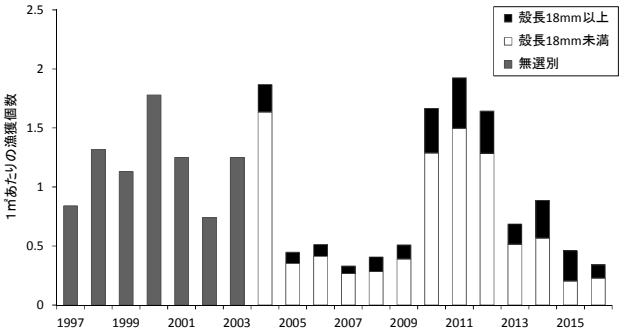

図2　主要7漁場における平均資源密度とサイズ別内訳の推移.

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。